

◆授業のポイント◆

- ・ 資料と発問を関連させた提示の工夫（教科論文P 28 参照）
- ・ 思考の過程を可視化するための工夫

社会科学学習指導案（公民的分野）

期 日 平成25年6月7日（金） 校時

指導学級 3年1組（男子19名 女子15名 計34名）

授業者 教諭 山下 正 樹

1 単元 わたしたちの生活と現代社会（現代社会の見方や考え方）

2 単元について

本単元は、学習指導要領「公民的分野2 内容（1）私たちと現代社会」の「イ現代社会をとらえる見方や考え方」を扱っている。学習指導要領では、社会生活における物事の決定の仕方、きまりの意義について考えさせ、現代社会をとらえる見方や考え方の基礎として、「対立と合意」「効率と公正」などについて理解させることが示された。

私たちの身近な問題を解決していく中で、社会生活における「対立」と、それが、話し合いにより「合意」に至ることの大切さや、さらに、その合意が妥当なものであるかを「効率」や「公正」という基準から判断することを通して、社会の大まかな仕組みをとらえ、社会に対する見方・考え方を高めていくことをねらいとしている。また、それらの知識・概念や技能を活用して、政治・経済・国際社会に関する様々な事柄や資料、課題等を理解し、考え、判断することも求めている。

本学級は比較的活発な生徒が多く、社会的事象に対して興味や関心をもち、課題に対しては意欲的に取り組む姿が見られる。小テストや定期テスト等において、基礎的・基本的な知識を問う問題に関しては、高い正答率が見られる。しかし、その反面、「なぜ」「どうして」という発問に答えることができる生徒が少なく、理由や原因・結果を答える記述の問題を苦手としている生徒も少なくない。

また、本校では、中学入学時から、少人数での話し合い活動やグループ学習を取り入れてきた。しかし、活発に話し合いができる生徒もいれば、苦手と感じている生徒もいる。そこで、さらなる言語活動の充実を図る必要がある。

本単元では、公民的分野の学習の基本となる「対立と合意」「効率と公正」などの現代社会をとらえる見方や考え方を、生徒へ確実に身に付けさせる必要がある。そのために、生徒にとって身近な例を取り上げ、効果的な資料や発問・グループでの話し合い活動を行うことで、話し合いが苦手な生徒にも活動しやすい場面を設定したい。そして、資料を読み取ったり、自分で考えたりしたことをノートにまとめるなど、思考の過程を可視化する工夫を行ったり、話し合い活動や、他人の意見も取り入れながら説明・論述等の表現をさせることで、言語活動の充実も図りたい。また、身近な題材を通して、本校社会科がめざす「社会的な見方・考え方」の育成につなげていきたい。

3 単元の目標

- (1) 現代日本の特色や物事の決定の仕方やきまりの意義に対する興味・関心を高め、それらが社会生活にどのような影響を与えているか、また、自分たちはその中でどのように生きていくべきかなどについて考え、学習に意欲的に取り組み、公民的分野の学習に対する関心を深めさせる。

＜社会的事象に対する関心・意欲・態度＞

- (2) 現代日本に見られる特色や物事の決定の仕方やきまりの意義について、身近な生活と関連付けてとらえさせるとともに、多面的・多角的に考察させ、現代社会をとらえる見方や考え方に基づいてまとめや発表をさせる。

＜社会的な思考・判断・表現＞

- (3) 写真や統計資料などから、現代社会の特色や、現代社会における物事の決定の仕方やきまりの意義について読み取らせる。その際、これまで学習した地理的分野・歴史的分野との関連や、それぞれの事象が相互に関連していることに着目させる。

＜資料活用 の 技能＞

- (4) 現代社会の特色や、現代社会における物事の決定の仕方やきまりの意義について、その知識を身に付けさせるとともに、現代社会をとらえる見方や考え方があることを理解させる。

＜社会的事象についての知識・理解＞

4 単元の指導計画（全4時間）

時	主 題	学 習 内 容	学 習 課 題	時 間
1	社会集団の中で生きるわたしたち	・社会的存在としての人間 ・社会集団における対立と合意	よりよい社会生活を営むために、わたしたちはどのようなことを考えなければならないだろう。	1
2	きまりを作る目的と方法	・きまりの意義 ・権利、義務、責任 ・決定のしかた	きまりは何のために作られるのだろう。また、どのような方法でつくればいいのだろう。	1
3	効率と公正 (本時)	・みんなが納得するためには ・効率とは、公正とは	みんなが納得できる解決策をつくるために、どのようなことを考えるとよいのだろう。	1
4	きまりの評価と見直し	・きまりは変更できる ・きまりを評価する視点	わたしたちはどのようなときにきまりを変えるのだろうか。また、また、どのように見直せばよいのだろう。	1

5 本時の実際（3／4）

- (1) 題 材 効率と公正
(2) 目 標

身近な生活や最近のニュースの中でのトラブルや事例を基に、解決策について予想し、これまでの学習や経験を基に、それぞれの立場で討論的な活動で話し合い、自分の考えをまとめ、解決策をつくることができる。

- (3) 授業設定の工夫

① 資料と発問を関連させた提示の工夫

導入では、公園利用に関する、さまざまな視点や立場の含まれる資料を提示し、特に生徒にとって、納

得できるよい結果となったのか。課題が残る結果となったのか疑問を持たせ、本時の学習課題を設定する。

また、展開場面では、生徒の身近な「自転車」や「九州新幹線」に関する事例を基に「効率」と「公正」について解釈させる。その際、より深く読み取り・解釈させるため、反対の主張の根拠となる発問を行う。終末では、これまでの学習を基に学習課題に対する答えをまとめ、説明させる。

② 思考の過程を可視化するための工夫

学習課題を明確に捉え、基礎的・基本的な知識、概念や技能をもとに、身近な事例に関する自分の考えが、グループでの話し合いの内容をふまえて変容していく過程が見え、学習課題を解決し、説明できるようにする。

(4) 本時の展開

過程	時間	形態	学 習 活 動	○指導上の留意点 ◎評価 ※授業のポイント
導入	8分	一斉	1 「公園で起こったある出来事」について考える。 公園でのキャッチボールは「行ってもよい」「禁止である」 2 学習課題を確認する。 学習課題 みんなが納得できる解決策をつくるために、どのようなことを考えればよいのだろう。	○ 公園利用をめぐる地域住民と行政の主張について、「地域住民」を支持するのか、「行政」を支持するのか、生徒の意思表示を基に考えさせ、みんな納得できる「公園利用の決まり」なのか疑問を持たせる。 (資料と発問を関連させた提示の工夫、資料①・②＋発問A・G) ◎ みんなが納得する「決まり」だったのか、疑問を持つことができたか。 ◎ 本時の学習課題を確認できたか。
展開	15分	一斉ペア	3 二つの身近な事例を基に、「効率」と「公正」という考え方があることに気付く。 「公正」についての事例 例1 自転車のルールについて (道路交通法)の改正 自転車による交通違反や事故が増加しているため、私たちが安全に生活する(私たち全員が利益を得る)ためには、やむをえない改正ではないか。 「効率」についての事例 例2 九州新幹線について	○ 根拠を明確にした予想をさせる。 (思考の過程を可視化するための工夫) ○ より深く読み取り・解釈させるため、反対の主張の根拠となる発問を行う。 (資料と発問を関連させた提示の工夫、資料⑤＋発問E) (思考の過程を可視化するための工夫) 予想される生徒の考え - 歩道を走ることが許可されたら、接触事故が増えるのではないかな？ - 違反行為が多いのだから、自動車と同じように罰して欲しい。

開	7分	一斉	鹿児島から短時間で熊本、福岡などの大都市を結ぶために、停車駅を最小限にし、各駅停車は肥薩おれんじ鉄道が運行している。 時間をむだにしない取組である。	(信号無視、歩行者への妨害等) ・ 運転免許を交付してもよいのではないかな。 ・ 新幹線が停車すると、町が活性化するから、出来るだけ停車駅を増やして欲しい。 ・ 飛行機よりも便利になった。福岡への日帰りも楽になった。
			4 「効率」と「公正」について教師の説明を聞く。	○ 合意を得るためには「効率」「公正」の考え方が必要であることを理解させる。 公正とは ----- みんなが参加して決めていること。 だれにでもチャンスが与えられており、みんなに一定の利益があること。 効率とは ----- 何かを決める時や、その結果においてお金や時間、労力、ものをむだにしていること
			5 学習課題について、「効率」と「公正」のいずれかの視点をふまえて説明をする。	○ 本時の学習課題のまとめについて、「効率」と「公正」の二つの視点から説明させる。また、生徒どうしの関わりも生かす。
	15分	個別グループ	◎ 説明の例 ・ 公園の利用について、時間で予約するなど、利用者に合わせた「効率」を重視した運営が大切である。 ・ 公園の利用について、だれもが楽しく、納得して利用できるように、「公正」な運営が大切である。	
終末	5分	個別・一斉	6 本時の自己評価と次時の予告を行う。	○ 本時の自己評価をさせ、授業内容や取組をふり返らせる。 ◎ 授業に意欲的に取り組み、学習内容を理解することができたか。 ○ 次時の学習を知らせる。